

令和7年4月1日

令和6年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学校名	管理機関名	設置者の別
益子町立田野小学校（外3校）	益子町教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表	学校関係者評価結果の公表
益子町立田野小学校	https://schit.net/mashiko/estano/	
益子町立益子小学校	https://schit.net/mashiko/esmashiko/	
益子町立益子西小学校	https://schit.net/mashiko/esmashikonishi/	
益子町立七井小学校	https://schit.net/mashiko/esnanai/	

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

世界に通用する「ましこの人」の素地を養うため、小学校1、2年生から外国語活動を導入し、コミュニケーション能力の素地を育成していく。そのために、特別の教育課程を編成し、実施していく。

低学年 ※特別の教育課程	第1学年 年間18時間（生活科から）	学級担任と外国語指導助手（ALT）とのティーチング
	第2学年 年間18時間（生活科から）	
中学年	第3学年 年間35時間（外国語活動）	専科教員と外国語指導助手（ALT）とのティーチング（第3学年は令和3年度より）
	第4学年 年間35時間（外国語活動）	
高学年	第5学年 年間70時間（外国語科）	専科教員と外国語指導助手（ALT）とのティーチング
	第6学年 年間70時間（外国語科）	

小学校1・2年生のコミュニケーション外国語活動については、「体を動かす活動」を中心とした指導計画により実施する。単元末には、思いや考えを伝えるコミュニケーション活動を設定する。また、単元末の活動に向けて、英語を楽しく慣れ親しむ活動ができるよう単元を構成する。さらに、英語による読み聞かせの活動を入れ、表現力の向上を図る。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

益子町は陶芸の里であり、年間290万人の観光客が訪れ、観光客の中には外国人も多数含まれている。また、多数の外国人が本町に住んで作陶している。子どもたちも日常的に外国人にふれあう環境にある。このような特性を踏まえて、益子町では学校教育目標の中に「世界に通用する人」

の育成を掲げている。平成22年度に策定した益子町の総合振興計画後期基本計画の行動計画としての「未来計画」の中で、「町民の国際的なコミュニケーション能力の育成」を掲げている。令和3年度からの第3期ましこ未来計画では、グローバル社会で活躍できる人材育成の充実・国際理解教育の推進を位置づけている。

さらに、平成19年度、20年度の2年間、益子小学校は英語活動等国際理解活動推進事業の拠点校として研究に取り組み、その研究成果を町内の全小学校、中学校で活かして現在に至っている。

このような本町の特性と現状を踏まえ、「英語でコミュニケーションが取れるましこの人の育成」をめざし、小学校第1学年から外国語活動を実施し、英語教育の充実を図りたいと考えている。

(3) 特例の適用開始日

平成24年4月1日

平成27年4月1日 変更

平成30年4月1日 変更

平成31年4月1日 変更

令和 2年4月1日 変更

(4) 取組の期間

特別の教育課程の編成を必要としなくなるまで

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- | | |
|-------------------|---|
| ○計画通り実施できている | } |
| ・一部、計画通り実施できていない | |
| ・ほとんど計画通り実施できていない | |

(2) 実施状況に関する特記事項

【実施体制】

- ・ALTを2名派遣し、全ての授業を担任とALTによるTTまたは専科教員とALTによるTTで行った。打合せの時間を確保し、英語指導に関する支援や指導方法の工夫、教材の開発を行い、特別の教育課程を円滑に実施することができた。
- ・月1回のALTミーティング（研修会）を実施し、教材研究や授業力向上のための研修を行った。
- ・小学校外国語活動を担当する教諭、中学校英語担当教諭、小学校全学年の児童に対しアンケート調査を実施し、計画作成において改善を図れるようにした。
- ・専科教員とALTを中心に人権教育も兼ねた研究授業を実施した。

【児童への教育上の配慮】

- ・児童の発達の段階への配慮として、1・2年生は「体を動かす活動」を中心とした指導計画のもと実施した。
- ・単元末には、思いや考えを伝える活動を設定し、単元末の活動に向けて、英語に楽しく慣れ親

しむ活動を通して、積極的にコミュニケーションを行おうとする態度を養うことができるよう授業を行った。

【指導計画、授業の内容】

- ・町独自作成した、年間指導計画・授業指導案・評価計画・ワークシート・振り返りカードを活用し、児童の実態や地域性を考慮しながら全小学校で実施した。

	1・2年
目標	(1)先生や友だちと関わる活動に積極的に取り組む。 (2)身近でやさしい表現に慣れ親しむ。 (3)言葉の違いに気付く。
	体を動かす活動
単元	L. 1 あいさつをしよう L. 2 動物になろう L. 3 果物を言おう L. 4 数えよう L. 5 いろいろなものを見つけよう

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

<特記事項>

- ・毎年、児童や教職員を対象としている外国語活動に関するアンケートを実施し、成果や課題を検証している。また、特別の教育課程の実施状況等について、益子町教育委員会及び教育課程特例校のホームページ等を通じて公表している。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

◇小学校全児童へのアンケート（R6年2月実施）より（肯定的回答の割合）

設問内容	R4年度	R5年度	R6年度
・外国語活動（外国語科）の授業は好きである。	79.9%	72.0%	73.3%
・英語は好きである。	72.2%	65.4%	71.5%
・外国語に興味がある。	66.8%	70.5%	73.4%
・英語を使って、コミュニケーションができるようになりたい。	80.8%	84.5%	82.9%
・将来、外国で好きな事や仕事をしたい。	43.9%	45.2%	48.6%
・外国語活動（外国語科）の授業では、先生や友だちの話す英語をしっかり聞いている。	91.9%	93.8%	94.1%
・外国語活動（外国語科）の授業に、進んで参加している。	93.6%	95.6%	89.3%
・外国語活動（外国語科）の授業で、先生や友だちとのコミュニケーションは楽しい。	90.8%	89.9%	81.4%
・外国語活動（外国語科）の授業中に、担任の先生や友だちが使う英語	83.0%	82.0%	76.6%

の意味はわかる。			
・外国語活動（外国語科）の授業中に、ALTが使う英語の意味はわかる。	80.2%	74.9%	69.4%
・外国語活動（外国語科）の授業中に、先生や友だちに英語を使って自分の考えを伝えることができる。	71.9%	67.0%	79.5%
・〈5年〉英語で書かれた名前や教科書に出てくる言葉（単語）を読むことができる。			69.9%
・〈6年〉教科書に書いてある英語の文を読むことができ、意味が分かる。			
・〈5年〉アルファベットの大文字・小文字や簡単な単語を書くことができる。			83.7%
・〈6年〉教科書の例文を見ながら自分が伝えたいことについて英語で文を書くことができる。			

【実施の効果】

- ・外国語活動（外国語科）の授業は好きである、英語は好きである、先生や友だちとのコミュニケーションは楽しいと、肯定的に回答している児童が多く、楽しみながらコミュニケーション活動に参加している。
- ・外国語活動（外国語科）の授業中では、先生や友だちの話す英語をしっかり聞いている児童が94.1%外国語活動（外国語科）の授業中に、先生や友だちに英語を使って自分の考えを伝える児童が79.5%と年々増加していることから、しっかりと英語を聞き取り、進んでコミュニケーションをとったりしながら、理解できるようになっている。

【課題】

- ・学年が上がるにつれて、外国語活動（外国語科）の授業に対する関心が低下する傾向がみられた。児童の発達段階や実態に合った教材の活用や指導法の工夫改善が必要である。
- ・高学年になると内容が難しくなり、ALTが使う英語を理解することに個人差があるなど、個に応じた支援の在り方を考えていく必要がある。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

【実施の効果】

- ・益子町が実施（12月）している学力調査において全体的な傾向をみると、教科総合、基礎、応用のいずれの得点においても、ほとんどの学年が全国平均より上回るか全国平均程度となっている。
- ・国語の応用では、全国平均より上回るか、昨年度の結果よりも向上している学年が多い。これは、外国語活動でコミュニケーション活動を積極的に取り組んできたことにより、思考力、判断力、表現力等が身に付いてきているものと考えられる。
- ・以上のことから「コミュニケーション外国語」の設置により、各教科等の学習において効果が上がっていると考えられる。

【課題】

- ・国語の「話す力・聞く力」は、全国平均とほぼ同程度の学年が多く、外国語活動でコミュニケーション活動を積極的に取り入れていることが国語の力に十分には生かされているとはいえない。

5. 課題の改善のための取組の方向性

- ・学年が上がっても「英語が好き」「英語の授業が楽しい」と思う子どもが増えるように、児童の発達段階や実態をとらえ授業改善に取り組んでいく。また、一人一台タブレットPCやデジタル教科書を効果的に活用できるようにしていく。
- ・3学年以上において外国語専科（非常勤の外国語教師を含む）とALTによるTTで授業を実施している。専門性を生かした取り組みをしていくとともに、教師の指導力が向上できるよう授業研究会や研修会等を実施し、指導者のスキルアップを図る。
- ・外国語科及び外国語活動のコミュニケーション活動において、コミュニケーションをする必然性があるよう場面設定を工夫しながら、Small Talkやインタラクティブ活動を計画的に実施するとともに、全教科で話合いや対話的活動を効果的に取り入れていくことにより、「話す力・聞く力」の向上を図る。